

原陽一先生をお送りするにあたって

経営学部長 佐藤典司

原先生は、2019年3月末をもって退職されることになりました。原先生は、1989年のご着任以来30年間にわたって、経営学部、経営学研究科、および立命館大学の発展に大きく寄与されました。このご功績に対して深甚の謝意を表しつつ、この『立命館経営学』をご退職記念号として謹呈させていただきます。

原先生は、1977年に国際基督教大学教養学部社会科学科をご卒業後、法政大学大学院社会科学部研究科経済学専攻・修士課程を経て明治大学大学院商学研究科・博士後期課程に入学され、1989年に同課程を単位取得退学されました。その後、同年に立命館大学経営学部助教授として着任され、1996年に経営学部教授とされました。その間、教育面では、会計学、国際会計論などを担当され、また研究面では、企業活動や資本市場の国際化に対応した企業、とくに多国籍企業の会計測定・開示に関わる社会的規範のあり方をIASC、EU等の経験に照らして、長年、研究を続けて来られました。そうした中、日本の会計制度をいかに変革すべきか、日本の会計人が会計の国際化にいかに対応すべきかという問題にも強い関心を寄せてこられました。

さらに大学運営面では、学部学生主事(1991)、研究科主事(1999)、そして2002年から2003年には全学の国際教育推進機構副機構長、2004から2006には同機構長、2007年には国際部長をつとめられ、2013年から2014年には大学協議員をつとめられるなど、経営学部および立命館大学の発展に大きく寄与されました。

また、原先生は、上記のような教育、研究、行政面での種々のご貢献に加え、とりわけ学部、研究科、全学の国際化に多大なご尽力をされ、大きな成果をあげられたことを忘れることはできません。学部の留学プログラムの作成過程から実施まで、また、学生の海外への送り出しや海外からの留学生の受け入れ等に関しましては、実にこまごまとした点までお世話いただきました。そして、国際教育推進機構長、国際部長として大学全体の国際化にご貢献されるなど、多大なご尽力をいただきました。

加えて、教育面では、基礎演習や専門演習、また講義の場などにおいて、懇切丁寧で細やかな指導にあたられ、学生、研究科生、留学生などから大きな支持を集めてこられました。改めて感謝申し上げます。

最後になりましたが、原先生におかれましては、いつまでもご健康でご活躍されますよう祈念申し上げますとともに、今後ますますのご研究の発展を願ってやみません。

